

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和8年2月19日

北海道運輸局

協議会名：南空知地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む） | 地方運輸局等における二次評価結果 |
|-----------------|---------------------------|--|---------------------------------|--|---|--|
| 北海道中央バス(株) | 岩見沢美唄線など全7系統 | 利用動向に応じたダイヤ設定を実施した。 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | B 計画策定時から路線廃止・減便があったため、公共交通の利用者数は目標「969千人以上」に対し「787千人」であった。 | 利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。 ・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。 |
| 夕張鉄道(株) | 札幌代行線① | 関係市町と協議を行い、利用者利便性向上のため2ルートでの運行とした。 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | | 沿線市町の利用ニーズを踏まえ持続可能な生活交通として、必要に応じ運行回数、運行経路の見直しを図っていく。 | |
| ジェイ・アール北海道バス(株) | 長沼線① | 鉄道との接続を意識したダイヤ設定など利便性向上を図った。 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | A 各路線の合理化に伴い、広域交通の収支率は「39.7%以上」に対し「42.7%」であった。 | 運賃改定により収支率が改善されたことを踏まえ、引き続き沿線自治体と連携し利用促進に取り組む。 | |
| (有) 下段モーターズ | 月形当別線 | <ul style="list-style-type: none"> ・JRへの接続等を考慮したうえで、ダイヤ変更について検討した。（結果としては変更なしとなった） ・小中学生を対象とした「お試し乗車券」を発行した。（バス利用へのきっかけ作りを目的として） | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | A 計画策定時から路線廃止・減便があったため、広域交通への公的資金投入額は目標「412,204千円以下」に対し「278,971千円」であった。 | 公共施設を結んでいる路線であることを周知するとともに、駅への接続など住民が利用しやすいダイヤを構築し、利用者増を図る。また、利用者の状況に合わせた運行経路・バス停等の検討を行う。 | |
| (有) 新篠津交通 | 北新線 | 利用動向に応じたダイヤの見直しを実施。現状の運行回数が適正なのかを判断した。 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | B における運転手数は目標「83人以上」に対し「69人」であった。 | 自治体と連携し利用促進に取り組む。車両老朽化更新にて、より良い利便性向上を図る。 | |
| (有) アオヤナギ観光バス | 岩見沢月形線 【車両減価償却費等国庫補助金】 | 新規路線 ※令和7年4月1日運行開始 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | B 岩見沢月形線の運行開始が令和7年4月1日からであり、令和7年9月30日までの半年の実績であるため、年間の利用者数「29,000人以上（半年換算14,500人）」に対し「13,389人」であった。 | 1年を通じた運行を踏まえて改善点等を探る。 | |